

令和7年度白亜の会 論文対策講座

- 1 講義 : 過去問の分析と対策および先輩の合格論文紹介
- 2 論文演習 : 予想問題にチャレンジ (個人・グループワーク)



青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会

副会長 齊藤 進

過去問の分析に際し問題の背景を知ることが重要

論文問題は教育課題を踏まえた文科省および各自治体の教育目標および教育施策に関連して出題される

教育課題とは

- ①学力向上（授業改善）
- ②児童・生徒の健全育成（いじめ、不登校、自殺、特別支援教育など）

多くの自治体で出題

社会と国民は学校に何を求めているか (文科省)

学力、体力、道徳性等

PISA学力調査

大きな話題に。論文問題に
反映される可能性も

主体的・対話的で深い学び
思考力・判断力・表現力
ICTの活用 個別最適な学び 協働的な
学び、などなど

文科省の教育施策に
大きな影響を与える

PISA学力調査 (Programme for International Student Assessment OECD加盟国)
15歳 (高校1年生) 対象 3年に1回実施 国際的な学習到達度テスト
読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野の習熟度を調査する試験

学習指導要領を踏まえた授業改善
ICT環境の整備

2018調査

2015の調査より読解力が8位から15位へ後退

思考力や応用力が問われる自由記述問題への回答率の低さ

授業でのICT機器の活用調査について、日本はOECD加盟国で最下位の利用率

2022調査

日本は3分野すべてで世界トップレベルに、読解力で過去最高水準

経済協力開発機構（OECD）は2023年12月5日、国際的な学習到達度調査

「PISA2022」を発表した。コロナ禍を経て4年ぶりとなる今回日本は**数学的リテラシー**において全参加国・地域中で**5位**、**読解力**は同**3位**、**科学的リテラシー**は同**2位**の結果となった。

文部科学省と国立教育政策研究所

1 新型コロナウイルス感染症のため休校した期間が他国に比べて短かったこと

2 学校現場において現行の学習指導要領を踏まえた**授業改善**が進んだこと・学校における**ICT環境の整備**が進み、生徒が学校でのICT機器の使用に慣れたことなどと分析。

論文問題に反映
される可能性も

文科省が示すこれからの教育の方向性（授業改善）

PISA学力調査結果が背景

令和の日本型学校教育

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

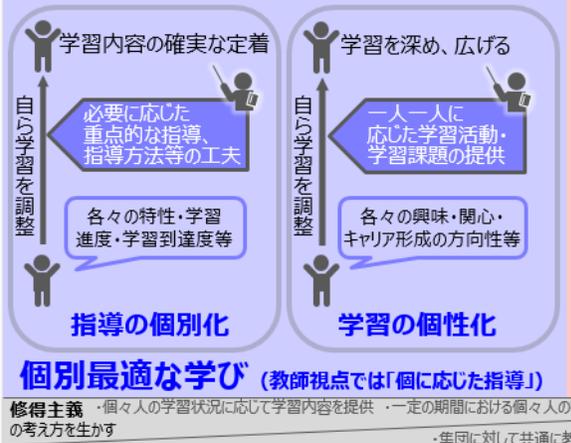
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達への支援

一体的
充実



東京部教育ビジョン（第5次）検討委員会

目的

施策

内容

の育成

令和2年9月11日
第13回特別部会

令和3年1月26日
中央教育審議会

誰一人取り残さない

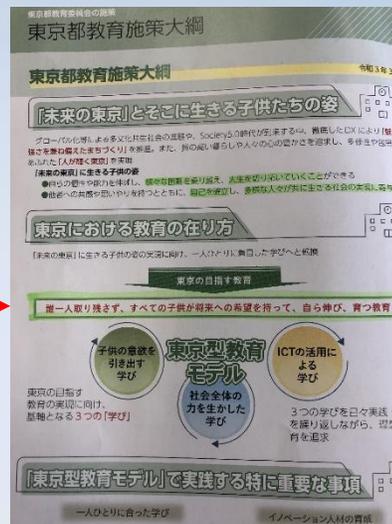
これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

個別最適な学びと協働的な学びの背景(東京都教育施策大綱 令和3年3月)

東京の目指す教育



誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育を目指して

東京都教育施策大綱



令和3年3月
東京都

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育

Sustainable Development Goals(SDGs)

2015年の国連総会で、「誰一人取り残さない」を理念に、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の持続可能な開発目標(ゴール)と169のターゲットが設定されました。SDGsをキーワードに、多様なネットワークと協働しながら、一人でも多くの人々が幸せを感じることができる社会を目指します。

【早稲田大学学生論文 東京都】

各学校では、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を引き出し伸ばす教育が求められています。このことについて、あなたの考えを述べた上で、その考えに立ち、教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、26行(910字)を超え、30行(1050字)以内で述べなさい。

私は教員として、生徒一人ひとりの可能性を信じ、良い点と可能性を併せて伸ばしていく。そして特別な支援を必要としている生徒を含め、**誰一人取り残すことのない教育を行う**。インクルーシブ教育の発展により、改善されたことも多くある。しかし、授業の進み具合や、他の生徒との兼ね合いもあり、生徒の可能性を最大限に引き出すことが出来ていないのが現状である。私は中学校の保健体育の教員として、以下の実践に取り組む。(197字6行)

第一に個に応じた学習活動を行う。私が体育分野を指導する際は、全員で段階を追って少しずつ進めるのではなく、レベル分けをして授業を進める。例えばマット運動を教える際は、マットをレベルごとに分け、生徒が自分に適した練習を出来るようにする。この活動により、同じマットには同じレベルの技を練習している仲間がいる為、出来る人と比べて焦る必要がなくなる。そのため自分のペースで可能性を伸ばしていくことが出来る。また、誰が得意としていて誰が苦手意識を持っているかが明確になる為、生徒同士で教え合いやすい環境を作ることが出来る。教え合うことによって、ただ順番待ちをしながら見ているよりも、相手の**良い点を見つける**ことが容易になる。そして、人に教えることによりアウトプットをすることが出来る為、お互いの成長に繋がる。(347字10行)

【早稲田大学学生論文 東京都】

各学校では、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を引き出し伸ばす教育が求められています。このことについて、あなたの考えを述べた上で、その考えに立ち、教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、26行(910字)を超え、30行(1050字)以内で述べなさい。

第二に、探究的な学習活動を行う。私が保健分野を指導する際は、知識として情報を得るだけでなく、当事者意識をもって課題と向き合い、私生活に活かすことの出来る授業作りを行う。例えば、健康な生活と疾病の予防の授業で取り扱う、飲酒と喫煙は生徒にとって身近な題材ではない。そこで、アルコールパッチテストやストローを用いたCOPDの疑似体験等の体験学習を通して興味・関心を持たせ、主体的に学習に取り組む態度を育む。その上で図書館やICTを活用した調べ学習を行い、現段階でできることや将来どう行動すべきかを考えさせる。これらの学習を行うことで、考えを深める力や情報選択の力等を伸ばすことが出来る。また、学習成果を生徒同士で相互評価を行うことによって、**互いの良い点を認め合う**ことが出来る。(330字10行)

このような実践を通して、生徒は自己理解を深め、自身の可能性を広げることが出来るようになる。そのために私は、**生徒一人ひとりの可能性を信じ、寄り添い、個々の良い点を見つける。**そして、さらなる可能性の引き出し方を模索し続けながら教科指導に取り組む所存である。(126字4行)

1 「東京都教育ビジョン」の位置付け

- 「東京都教育ビジョン（第5次）」は、国が定めた「第4期教育振興基本計画」を参酌し、**東京都教育委員会が定める施策展開の基本的な方針**（計画期間：令和6年度～令和10年度）
- 東京都知事が定めた「**東京都教育施策大綱（令和3年3月）**」と**基本的な方針を共有し、より実行力のある施策展開へ**

今後5年間の施策展開の方向性を示した、全ての教育関係者の「羅針盤」

2 策定の背景

- 人口減少による労働力不足、日本の国際競争力の低下が懸念、国際社会の中で**未来を切り拓く「人」の育成が急務**
- 外国人人口や障害者雇用数等が増加傾向、多様な人々が社会に参加・貢献できるような**共生社会の実現が不可欠**
- 教育の質を向上させるためには、**DXの推進や、優れた教員の確保が一層重要**

3 「未来の東京」に生きる子供の姿、東京の目指す教育

学校、家庭、地域、区市町村、関係機関等が連携して、
「**誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育**」を推進することにより、
「**未来の東京に生きる子供の姿**」を実現



※ 東京都教育施策大綱
（令和3年3月）と同一

4 第5次ビジョンの特徴

○ 3本の柱を設定

- * 自ら未来を切り拓く力の育成
- * 誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実
- * 子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化

○ 12の「基本的な方針」を設定

特に、教育のインクルージョンの推進、困難を抱える子供へのサポートの充実等の内容を強化

○ 読みたくなる、使いたくなるビジョン

図やグラフ等を用いて、教育関係者はもとより、子供にとっても分かりやすいものに

5 「東京都教育ビジョン（第5次）」の体系

柱	基本的な方針	5か年の施策展開の方向性
1 自ら未来を切り拓く力の育成	1 全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育	①これからの社会を生きるために必要な基礎的、基本的な知識・技能の確実な習得 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
	2 Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材を育成する教育	③デジタルトランスフォーメーション（DX）時代を生き抜く人材の育成 ④新たな価値の創造に向けた専門的能力・職業実践力の育成 ⑤科学的に探究する力を伸ばす理数教育の推進
	3 グローバルに活躍する人材を育成する教育	⑥異なる言語や文化、価値を乗り越え関係を構築する力、新しい価値を創造する力の育成 ⑦豊かな国際感覚を身に付け、世界をけん引していくことができる人材の育成 ⑧我が国の伝統・文化等に立脚した広い視野や多様な人々と協働する力の育成
	4 主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育	⑨自分の希望する将来への道がつながっていることを実感できる学びの実現 ⑩SDGsの理念等を踏まえた持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成
	5 豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育	⑪人権尊重の理念を定着させ、あらゆる偏見や差別をなくす教育の充実 ⑫他者への思いやりなど、豊かな心を一人ひとりの子供たちに育む教育の推進 ⑬いじめ防止等の対策や自殺対策に資する教育等、健全育成に係る取組の推進
	6 健やかな体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育	⑭生涯を通じて、たくましく生きるために必要な体力を育む教育の推進 ⑮健康で充実した生活を送るための力を育む教育の推進 ⑯危険を予測し回避する能力や、社会の安全に貢献できる資質・能力を育む教育の推進
2 誰一人取り残さない教育の充実	7 教育のインクルージョンの推進	⑰障害のある児童・生徒の能力を最大限に伸ばす教育の充実 ⑱柔軟な仕組みによる多様な学びの場を創出し、子供たちが尊重し合いながら学ぶ環境の整備
	8 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実	⑲様々な困難を抱える児童・生徒への支援の充実 ⑳社会的な自立を支援する学びのセーフティネットの充実
	9 家庭、社会と学校とが連携・協働する教育活動の推進	㉑学校と家庭、地域・社会が一体となり、子供を見守り、育てる教育活動の推進 ㉒地域・社会の教育資源を活用し、子供を支え伸ばす教育活動の推進
3 子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化	10 これからの教育を担う優れた教員の確保・育成	㉓新たな学びを担う優れた教員の養成・確保 ㉔教員一人ひとりのキャリアに応じた資質・能力の向上 ㉕教育者としての高い見識をもち、広い視野で学校経営ができる管理職の育成
	11 学校における働き方改革等の推進	㉖教員が心身ともに健康に、やりがいを感じながら、職務に取り組める環境の整備 ㉗教員一人ひとりの健康保持の実現 ㉘公益財団法人東京都教育支援機構（TEPRO）との連携による学校支援の充実
	12 質の高い教育を支える環境の整備	㉙質の高い学校教育を支える環境、施設・設備等の整備 ㉚幅広い年代の都民の学習機会の充実

学習指導要領：児童生徒に知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指す

すべての内容を3本柱に集約

新学習指導要領では、**知・徳・体**にわたる「生きる力」を育み、「**主体的・対話的で深い学び**」を実現すること。そのためには「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有すること、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を行うことが必要。その実現に向けた全教科の目標や内容の集約。

- ①知識や技能
- ②思考力、判断力、表現力
- ③学びに向かう力、人間性

